



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月5日

上場会社名 クオールホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 3034 URL <https://www.qolhd.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 敬
問合せ先責任者 (役職名) 広報部長 (氏名) 白国 宏基 (TEL) 03-6430-9060
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	216,025	9.0	9,415	△14.7	9,487	△16.5	4,671	32.6
2025年3月期第3四半期	198,207	47.3	11,034	92.6	11,361	74.2	3,524	△6.6

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 5,306百万円(△8.3%) 2025年3月期第3四半期 5,788百万円(53.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	124.46	—
2025年3月期第3四半期	94.22	—

(参考) EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)

2026年3月期第3四半期 16,593百万円 2025年3月期第3四半期 16,963百万円

のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

2026年3月期第3四半期 7,831百万円 2025年3月期第3四半期 6,789百万円

のれん償却前EPS(のれん償却前四半期純利益/期中平均株式数)

2026年3月期第3四半期 208円66銭 2025年3月期第3四半期 181円52銭

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	156,617	56,655	34.9
2025年3月期	159,669	62,138	35.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 54,705百万円 2025年3月期 57,123百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	17.00	—	17.00	34.00
2026年3月期	—	23.00	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	—	—	23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	280,000	6.1	15,500	15.1	15,600	12.8	7,000	35.5	186.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 一、除外 一社 (社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期3Q	38,902,785株	2025年3月期	38,902,785株
2026年3月期3Q	1,328,819株	2025年3月期	1,349,819株
2026年3月期3Q	37,531,994株	2025年3月期3Q	37,401,519株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 自己株式数には、従業員持株会専用信託口の所有する当社株式を含めて記載しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(その他特記事項)

決算補足説明資料については、適宜当社ホームページに掲載いたします。

<https://www.qolhd.co.jp/ir/library/supplementarymaterial.html>

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	12

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により、緩やかな回復が見られました。しかしながら、物価上昇の継続による個人消費への影響やアメリカの通商政策等、景気の先行きにつきましては、依然として不透明な状況が続いております。

2025年11月には、中期経営計画骨子を開示し、2030年の当社グループのありたい姿として、「すべての人に、医療の安心を届ける存在へ」を掲げました。「深化」と「進化」を基本方針とし、薬局事業・BPO事業・製薬事業の発展と成長を実現してまいります。

また、当第3四半期連結累計期間における当社グループ連結業績については、過去最高の売上高及び親会社株主に帰属する四半期純利益となっております。

薬局事業においては、前期に実施された調剤報酬改定で新設された医療DX推進体制整備加算の取得等が進んだことや、後発医薬品の使用割合が増加したことにより、技術料単価が上昇しております。一方で、処方期間の長期化が進んでおります。また、昨今の物価上昇の状況に対応するために給与を増額したことにより、人件費が増加いたしました。引き続き、国から求められる薬局のあり方に沿って運営してまいります。

BPO事業においては、CSO事業を運営する、アポプラスステーション株式会社の派遣MRを活用する企業数が増加しており、企業からの需要に適切に対応した結果、派遣数が増加いたしました。

製薬事業においては、2025年4月に、第一三共エスファ株式会社の株式の29%を追加取得し、株式保有割合は80%となりました。業績につきましては、2024年12月に発売いたしましたAG製品3成分7品目が大きく寄与しているものの、第一三共エスファ株式会社において、当第3四半期連結会計期間より、費用の一部を3月に一括計上する方法から下半期に按分計上する方法に変更したことにより、営業利益が減少いたしました。なお、2025年12月に、AG製品1成分1品目を発売し、2026年3月には、AG製品1成分4品目の発売を予定しており、業績への寄与が見込まれております。

また、2025年12月には、当社グループの継続的なESGに対する取り組みが国際的に評価され、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築されたESG投資指数の構成銘柄に選定されました。今後もグループ全体でESGに対する取り組みを一層強化し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

当第3四半期連結累計期間における当社グループ連結業績は、売上高216,025百万円（前年同期比9.0%増加）、営業利益9,415百万円（前年同期比14.7%減少）、経常利益9,487百万円（前年同期比16.5%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,671百万円（前年同期比32.6%増加）となりました。また、EBITDAについては、16,593百万円（前年同期比2.2%減少）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 薬局事業

薬局事業においては、薬局の機能分化等の専門性向上、患者さまの利便性向上やM&A・新規出店及び在宅・施設調剤の推進による規模の拡大、DXの活用等による生産性の向上に取り組んでおります。

当第3四半期連結累計期間において、出店状況は、新規出店10店舗、子会社化による取得1店舗の計11店舗増加した一方、閉店14店舗、事業譲渡3店舗の計17店舗減少した結果、当事業全体で店舗数は942店舗となりました。なお、地域の特性にあわせて店舗戦略を見直しております。また、2026年1月には、株式会社ひかりが神奈川県内にて運営する調剤薬局8店舗を譲り受けました。当該店舗は、横浜駅前エリア等、利便性の高い店舗を展開し、在宅医療にも取り組んでおります。今後も、患者さまに寄り添う医療の実現に一層努めてまいります。

薬局運営においては、2025年6月に、KDDI株式会社がローソン店舗内のブースで提供する、次世代リモート接客プラットフォームに参画いたしました。当社グループのオンライン専門薬局「クオールどこでも薬局」と繋ぐことで、様々な患者さまにオンライン服薬指導を受けていただくことにより、新たな顧客体験の提供及び都心部と地方における医療資源の偏在等の課題の解決を実現いたします。

また、2025年11月には、クオール株式会社において、尿を採取するだけで10種類のがんリスクをAIにより解析できる、尿がんリスク検査「マイシグナル®」の販売を開始いたしました。がんの早期発見を支援することで、地域の健康寿命延伸に貢献してまいります。

業績につきましては、医療DX推進体制整備加算の取得等が進んだことや、後発医薬品の使用割合が増加したことにより、技術料単価が上昇しております。一方で、処方期間の長期化が進んでおります。また、昨今の物価上昇の状況に対応するために給与を増額したことにより、人件費が増加いたしました。

その結果、売上高は132,418百万円（前年同期比2.8%増加）、営業利益は6,866百万円（前年同期比2.3%減少）となりました。

② BPO事業

BPO事業においては、引き続き、CSO事業、CRO事業、紹介派遣事業、出版関連事業の規模を拡大してまいります。

CSO事業につきましては、アポプラスステーション株式会社において、派遣MRを活用する企業数が増加しており、企業からの需要に適切に対応した結果、派遣数が増加いたしました。今後は、人材紹介会社との連携強化等により採用力を高めるとともに、医療の発展に即した様々な領域の営業も受注してまいります。また、医薬品や食品等の開発業務の受託を行うCRO事業につきましては、アポプラスステーション株式会社において、食品試験を中心とした受注の増加により拡大してまいります。2025年11月には、医薬品開発の治験・臨床研究に利用されるEDCを提供する、クリンクラウド株式会社をグループ化いたしました。医薬品開発の治験・臨床研究の拡大に加え、食品試験にもEDCを導入した支援を行うなど、グループ化によるシナジーを活かして、更なる事業拡大につなげてまいります。

紹介派遣事業につきましては、アポプラスキャリア株式会社において、特に薬剤師の紹介派遣に関して、社員の採用を前期に強化したことにより、社員数の増加に伴い成約件数が増加した一方、人件費や広告宣伝費等の固定費が増加いたしました。今後も引き続き、人材育成及び生産性の向上に注力してまいります。

出版関連事業につきましては、メディカルクオール株式会社において、製薬メーカーや医療団体の講演会運営等を行うコンベンション事業や、製薬メーカーの制作物等が各種規制を遵守していることを検証するコンプライアンスサービス事業等が拡大しております。また、制作業務の一部内製化等の成果により、利益率が上昇しております。

その結果、売上高は10,536百万円（前年同期比4.8%増加）、営業利益は1,346百万円（前年同期比9.9%増加）となりました。

③ 製薬事業

製薬事業においては、グループシナジーを活用した研究開発及び販売活動により、更なる成長を目指します。

製品ラインナップにつきましては、患者さまや医療関係者目線の開発を強化するとともに、後発医薬品以外の領域も拡大してまいります。また、薬局事業の知見を活かした情報提供を行い、市場シェアを拡大してまいります。

業績につきましては、2024年12月に発売いたしましたAG製品3成分7品目が大きく寄与しているものの、第一三共エスファ株式会社において、当第3四半期連結会計期間より、費用の一部を3月に一括計上する方法から下半期に按分計上する方法に変更したことにより、営業利益が減少いたしました。なお、第一三共エスファ株式会社において、2025年12月には、前立腺癌治療剤『アピラテロン酢酸エステル錠（先発品名ザイティガ®錠）』を発売し、2026年3月には、抗血小板剤『プラスグレル錠（先発品名エフィエント®錠）』及び『プラスグレルOD錠（先発品名エフィエントOD®錠）』の発売を予定しており、業績への寄与が見込まれております。

藤永製薬株式会社においては、第一三共エスファ株式会社との連携も視野に入れ、医薬品の品目数増加に向けた準備を進めております。

その結果、売上高は73,069百万円（前年同期比23.1%増加）、営業利益は4,024百万円（前年同期比26.0%減少）となりました。

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

※CSO：Contract Sales Organizationの略

※CRO：Contract Research Organizationの略

※MR：Medical Representativeの略

※EDC：Electronic Data Captureの略

※AG：Authorized Genericの略

（参考）報告セグメントごとの状況

		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減率 (%)
薬局事業	売上高	128,781	132,418	2.8
	セグメント利益	7,026	6,866	△2.3
BPO事業	売上高	10,057	10,536	4.8
	セグメント利益	1,225	1,346	9.9
製薬事業	売上高	59,367	73,069	23.1
	セグメント利益	5,440	4,024	△26.0
計	売上高	198,207	216,025	9.0
	セグメント利益	13,692	12,237	△10.6

（注）各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

① 資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、156,617百万円となり、前連結会計年度末から3,051百万円減少しております。

これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が5,472百万円増加した一方、現金及び預金が5,667百万円、のれんが2,557百万円減少したことによるものであります。

② 負債の状況

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、99,961百万円となり、前連結会計年度末から2,430百万円増加しております。

これは主に、買掛金が9,573百万円増加した一方、長期借入金が5,409百万円、未払法人税等が1,939百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、56,655百万円となり、前連結会計年度末から5,482百万円減少しております。

これは主に、利益剰余金が3,158百万円増加した一方、当社連結子会社である第一三共エスファ株式会社の株式を追加取得したことにより、資本剰余金が5,569百万円、非支配株主持分が3,064百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年5月9日に公表いたしました通期連結業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,727	21,060
受取手形、売掛金及び契約資産	21,377	26,850
商品及び製品	4,505	6,812
仕掛品	211	210
原材料及び貯蔵品	4,162	5,336
その他	3,366	1,934
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	60,348	62,200
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,749	8,790
工具、器具及び備品（純額）	1,693	1,733
土地	6,943	6,837
その他（純額）	754	505
有形固定資産合計	18,141	17,867
無形固定資産		
のれん	39,395	36,838
営業権	29,366	26,922
ソフトウェア	1,027	1,818
その他	549	598
無形固定資産合計	70,338	66,177
投資その他の資産		
投資有価証券	143	155
敷金及び保証金	4,174	4,390
繰延税金資産	2,418	1,703
退職給付に係る資産	2,136	2,539
その他	1,990	1,605
貸倒引当金	△21	△21
投資その他の資産合計	10,841	10,371
固定資産合計	99,321	94,416
資産合計	159,669	156,617

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	30,715	40,288
短期借入金	13,500	15,800
1年内返済予定の長期借入金	8,369	7,164
未払金	5,149	5,093
未払法人税等	2,761	821
賞与引当金	2,436	1,440
返金負債	7,082	5,947
その他	4,187	5,301
流動負債合計	74,202	81,858
固定負債		
長期借入金	19,202	13,793
繰延税金負債	302	785
役員退職慰労引当金	156	117
退職給付に係る負債	885	905
資産除去債務	1,175	1,188
その他	1,605	1,314
固定負債合計	23,328	18,103
負債合計	97,531	99,961
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,786	5,786
資本剰余金	11,301	5,732
利益剰余金	41,988	45,146
自己株式	△1,959	△1,975
株主資本合計	57,116	54,690
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6	14
その他の包括利益累計額合計	6	14
非支配株主持分	5,014	1,950
純資産合計	62,138	56,655
負債純資産合計	159,669	156,617

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	198,207	216,025
売上原価	167,803	187,508
売上総利益	30,404	28,516
販売費及び一般管理費	19,369	19,100
営業利益	11,034	9,415
営業外収益		
受取家賃	111	233
受取手数料	47	53
保険解約返戻金	29	—
補助金収入	9	6
受取保証料	44	44
助成金収入	270	93
その他	79	134
営業外収益合計	592	564
営業外費用		
支払利息	143	257
支払手数料	34	60
賃貸費用	53	54
減価償却費	20	44
その他	12	76
営業外費用合計	266	493
経常利益	11,361	9,487
特別利益		
固定資産売却益	7	61
退職給付制度改定益	372	—
その他	—	6
特別利益合計	379	67
特別損失		
固定資産除却損	49	61
固定資産売却損	4	42
役員退職慰労金	961	11
段階取得に係る差損	214	—
事業整理損	—	59
その他	6	1
特別損失合計	1,236	176
税金等調整前四半期純利益	10,504	9,378
法人税等	4,730	4,080
四半期純利益	5,773	5,298
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,249	627
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,524	4,671

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	5,773	5,298
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	14	8
その他の包括利益合計	14	8
四半期包括利益	5,788	5,306
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,538	4,679
非支配株主に係る四半期包括利益	2,249	627

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	薬局事業	BPO事業	製薬事業	計		
売上高						
処方箋応需による売上	119,557	—	—	119,557	—	119,557
医薬品製造販売による売上	—	—	59,367	59,367	—	59,367
その他	9,224	10,057	—	19,282	—	19,282
顧客との契約から生じる収益	128,781	10,057	59,367	198,207	—	198,207
(1) 外部顧客への売上高	128,781	10,057	59,367	198,207	—	198,207
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	77	937	—	1,015	△1,015	—
計	128,859	10,995	59,367	199,223	△1,015	198,207
セグメント利益	7,026	1,225	5,440	13,692	△2,657	11,034

(注) 1. セグメント利益の調整額の内容は、次のとおりであります。

(単位: 百万円)

セグメント間取引消去	1,962
全社費用※	△4,619
合計	△2,657

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	薬局事業	BPO事業	製薬事業	計		
売上高						
処方箋応需による売上	122,415	—	—	122,415	—	122,415
医薬品製造販売による売上	—	—	73,069	73,069	—	73,069
その他	10,003	10,536	—	20,540	—	20,540
顧客との契約から生じる収益	132,418	10,536	73,069	216,025	—	216,025
(1) 外部顧客への売上高	132,418	10,536	73,069	216,025	—	216,025
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	98	1,020	—	1,118	△1,118	—
計	132,517	11,557	73,069	217,143	△1,118	216,025
セグメント利益	6,866	1,346	4,024	12,237	△2,821	9,415

(注) 1. セグメント利益の調整額の内容は、次のとおりであります。

(単位: 百万円)

セグメント間取引消去	1,821
全社費用※	△4,643
合計	△2,821

※全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 売上高は主に顧客との契約から認識された収益であり、その他の源泉から認識された収益の額に重要性はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2025年4月1日付で、連結子会社である第一三共エスファ株式会社の株式の29%を追加取得いたしました。この結果、当社の株式保有割合は80%となり、資本剰余金が5,569百万円減少しております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	2,663百万円	4,017百万円
のれんの償却額	3,265	3,160